

花巻市東和地域協議会
平成26年度第2回会議記録

日 時	平成27年1月29日(木) 10:15~11:50							
場 所	東和図書館 会議室							
委 員	役 職	氏 名	出席	欠席	役 職	氏 名	出席	欠席
	委 員	下林 育男	○		委 員	熊谷 惠	○	
	委 員	鎌田 榮一	○		委 員	多田 保子	○	
	会 長	小原 宏	○		委 員	大久保 浩二	○	
	委 員	伊藤 功	○		副会長	松葉 孝博	○	
	委 員	吉田 英雄	○		委 員	渡部 久美子	○	
	委 員	小原 順	○		委 員	柳谷 励子	○	
	委 員	小川 洋征	○		委 員	平野 悠広	○	
	委 員	下坂 淳代		○				
出席職員	総合政策部 秘書政策課 課長 藤田哲司、主任 吉田真彦 東和総合支所 支所長 佐々木力弥 地域振興課 課長 菅谷一雄 地域振興課 課長補佐 照井美智彦、上席主任 新田正幸 市民サービス課 課長 川村勝夫 地域支援室 地域支援監 青木力三							
傍 聴 者	1名 (うち報道機関1名)							

司会：地域振興課 課長補佐 照井

1 開会 (司会)

2 あいさつ (小原宏会長)

3 議題

(1) 「人口減少対策に係る中間報告」について

※資料により説明（藤田秘書政策課長、吉田主任）

●（議長）小原宏会長

それでは、この資料説明いただきましたが、資料についてご質問がありましたら、お願いしたいんですが。

●小川洋征委員

74ページから。Iターン、Uターン、その他にJターンというのが書いてあるんだけど、Jターンというのはどういう意味か。

●秘書政策課 吉田主任

Jターンはですね、どこかの、岩手では無いどこかに生まれるんですけど、例えば岐阜とか。岐阜に生まれました、東京に就職しました、岩手に来ます、という動きがちょうどJに似ている。Iは、直線なんですよ。

1回、どこかの大都市を経験したよその出身の人が最終的に岩手に、花巻にやって来る、どこか1回経由しているパターンですね。

●下林育男委員

66ページからの、雇用対策とか1、2～9、非常に良い資料なんです。これをいかに実現するかというのが1番のポイントだと思いますが、その辺をどのように考えているか。

●秘書政策課 藤田課長

あえてうちの担当が端折ったのは、これに金を付けて、それを3月の議会に入れるために、予算を今、盛んとやっているところですが、27年の予算に上げるつもりで、作業していたんですよ。これを皆さんに説明しなければならないなと思いつつ、そしたら、1月の9日の日ですね。補正予算で前倒しでやれという。国は人口減少を含む、地方創生を早くやりたいので、26年の前倒しで補正予算を出す。それで、27年に実際はやるものなんですけど、26年の補正予算に入れるもの、入れないもの。交付金付くのなら新しくやるもの、というのが混在していて、3種のパターンでやっておりますので。

こういう説明をさせて下さい。27年からやらさるようなもの、という考え方でご説明します。人口減少。前段で申し上げますが、国の総合戦略が出てきてみたらですね、人口減少だけでなく、地方創生、地方活性化する商品券、そういうのとか色んなのが出てきましたので、人口減少対策に限って言いますと、皆さんにいつている資料の中では、就業の支援、ジョブカフェ花巻っていうのは、花巻

にある就職の相談をする組織があるんですが、そこいる支援員、就職支援をする人が少ないということで、増員をするようなこととかが、雇用対策。それから、企業誘致。今、工業団地が少なくなったそうなので、企業団地が少なくなっておりますので、新たな工業団地を造ると。年次計画で今後造っていくために、去年の6月補正で計画の予算をいただいて、振興するということを考えておりましたし、農政、産業の方では、就農、新しく農業に定着してくれる人を見つけようということで、まだ公表できるところまで煮詰まっていませんけれども、新しく農業をしたいと言う人が、花巻に来ていただく宣伝、PRと、来た時の支援

●秘書政策課 吉田主任

農業やっていく中で、色々資金がかかったりとか生活費がかかったりとか、資材そろっても、種買ったり糶買ったりしなきゃない。そういった部分を含めて経費支援を何年間かやって、何年間の中で自立して農業やっていけるように、全体的な資金面のバックアップだったりとか、農協さんとかと連携したアドバイス支援等々も含めた事業ということで、3番の新規就農の定住事業というものが事業に乗っている。

●秘書政策課 藤田課長

我々の方で大きなことを考えていましたのは、ちょっと端折りますけれども、ページで言うと71とか72、73の子育て支援のところ。子育て支援のところに新しく、例えば、子どもにかかる医療費が、若干負担になっている部分を、どこまでかの年齢かを医療費の負担を下げることも考えているところです。なお、去年から始めているんですけど、インフルエンザの子ども分の予防接種の負担を助成をしてきたんですけども、今年度26年度から。それを続けてく、金額もなんぼが良いんだかということとか。残念ながら子宝に恵まれなくて、でも子どもが欲しい方の特定不妊治療とか、そういうことも継続してやっていこう、ということは、考えていますし。

これってよく見ると、一律、市町村でみんな同じ様にやっていないんです。うんと先駆けてやっているところは、失礼ですけれども、人口が数千人程度のところだともっとがんばっていて。（花巻市の場合）何千万とか、何億円という単位。10万人の人口規模でありますので。やりたいことと、市民さんからお預かりしている税金の使い方としてそれで良いかということを考えつつやっていくということで。どこまでやれるかなというところも含めてですが。東和総合支所管内にもですね、都会の方を引っ張って来まして、地域おこし協力隊という制度を使って、東和に来て情報を発信し続けつつ、東和に限りませんが、大迫、石鳥谷、そういう地域に、地域以外の人に来ていただきまして、数年間、若干の謝礼を差し上げつつ、課題を掘り下げて、なんぼか地域を良くするような知恵を。一般人が来る制度なので、学者さんが来る制度では無いですが。そういったようなことをやっていきたいなと思って、その制度作りも進めてました。ほかの人から見て、そこに短期間ですがいて、何か考え方を地域と一緒に考えてみることも、進めようと思って取り組んでいました。

議会の前ですし、まだ固まっていなくて、市長と財政方と我々と、行ったり来たりして、今、途中でございました。ただ、言えることは、27年度から始めるのが全部、ということは無いです。当然、約10万人の人はずっと生活していくわけですから、将来に向けて、こういうことも良いんじゃないという提案をいただきつつ、それを事業に乗せる様に考えていきたいと思っておりますから、よろしくお願いいたします。

●熊谷恵委員

2つあります。1つはジョブカフェ花巻というのは、現在、どこかにあるわけですね。教えていただきたいと思っております。

●秘書政策課 吉田主任

ジョブカフェ花巻は花巻の駅前にビジネスインキュベータという施設、都市型産業いわゆるIT関係であったりとか、サービス関係であったりとかで、仕事を起こしたい起業したいという方々が、家賃安く入って、5年間安い家賃の中で事業構築だとか、売れるサービスを作ったりして仕事をしていく、そういう支援施設。その1階のところにジョブカフェ花巻という施設が設置されている。

●秘書政策課 藤田課長

なはんプラザからなんぼか南、賢治さんの喫茶店（林風舎）の次のあたりかな。

●東和総合支所 佐々木支所長

インキュベーション施設って、新規企業の研修施設、それから貸事務所ということで、2階建て。色んな企業が入っているんです。ITが主体なんですけど。結構利用はされてます。

●熊谷恵委員

もう1つ。特定不妊治療の件に関しまして、子どもが生まれてからの子育て支援というのはとてもすごく手厚いなっていうのをこの頃感じてるんです。ただどうしても子どもが欲しくても恵まれない、私は実は9年間経験があります。ずいぶん昔のことなんで全然支援とかそういうことは無かったんですけども、ずっと医大に通いました、で、子どもを授かったんですけど、この特定不妊っていうの本当に大変な、欲しくても子どもが授からないということに対して結構な医療費かかるわけなんですよ。ですから途中でどうしても断念してしまうような方も聞いております。そういうことについての、現在子どもたちが生まれてしまった支援はすごく良いけれど、その前のことについての支援がどのくらいになってるのかなということ、お聞きしたい。

●秘書政策課 藤田課長

不妊治療の種類については、一般的には通って通院して処方してもらってという比較的安価なものもあれば、人工的な施術が必要で高額な不妊治療もあります。今、国をあげて県も特定不妊治療に取り組んでおりまして、高額な治療費を助成すると、花巻市はさらにそれにかさ上げをして、今やっております、28年度にむけて、1回きりという前は補助金だったんです。その人が1回きり。今後は最大何回まで支援しますよというようなことに変りますので、広報に載せたりホームページに掲げたりして宣伝はしていきますから、それを26年から始めたんですが、27年も続けていきますから。

●平野悠広委員

先ほど、ジョブカフェの方で、ITに関する支援だとか行っているっていうことですが、この施策の中に通信インフラについては、出ていないんですけど、どのようにお考えでしょう。

●秘書政策課 藤田課長

大事な視点なのであえて申し上げますが、地域を振興させるというふうな、地域を創生させるという国の今の考え方からすると、おっしゃるとおり。そういうことは当然あるし、花巻としても、今、実はインフラと言いますか、光ケーブルが届いていない場所が、地域的に花巻の中ではこちらの地域と大迫の一部で光がまだ行っていないということがありますので、重ねて、NTTに要望をし続けているところです。私も何回もNTTに行って要望をし続けているところです。人口減少というところになった時には、社会インフラ、ITとかそういうところについてはあえて触れていなかったのは、生活関連の部分を中心にここに書いていますので、これの外でも、がんばって要望を続けていましたので。

●東和総合支所 佐々木支所長

IT関係は、東和地域は、土沢、成島だけなんです。後はほとんど光ファイバーは整備されていませんので。今回、小山田、前田、百ノ沢の関係で拡張したいということで、調査をNTTが始めております。当然、中内とか浮田とか、田瀬、これに関しては、この間市長とも話をしたのですが、NTTで投資するためには、半分以上入ってもらうのが最低ラインなんです。そこで採算とれるかどうかというのを調査しながらいきますということなので、なかなか、すぐということにはならないだろうという見解です。ただし、進めていくように要望していきますと。ただ、その代替えとして、Wi-Fiの方が早く普及するだろうという見通し、これもあります。多分そちらの方にいくと思います。今の動きはそういうところです。

●（議長）小原宏会長

それではそのほか無ければ、この資料については良いですか。もし良いとなれば、これ以降は、要

望だとか、提案だとか、お持ちだろうと思いますので、自由な討議に入りますので、これは課長さん方に聞かせておいた方が良いなということがありましたら、挙手をお願いしたいのですが。

●下林育男委員

この間、テレビを見てちょっと驚いた事例があったんですよ。出産支援ということで、関東近辺の自治体で、1子から出産祝いを何十万、3子なら百万、だいたいそれで出生率が4ぐらいに上がった。そういう自治体があるんですよ。そういうことに対して、どのようにお考えなんでしょう。人口減を食い止めるにはそれしか無いという、自治体の対策というのは、これほとんどないやり方なんでは。どうしても、経済力が無いと、お金が無いと、子どもを産む気にならないという夫婦が多いということですね。それをどうにか支援したいということで、これはやはりお金でしょ、という自治体があったんですよ。そういうのに対して、花巻市ではどのように考えるのか。

●秘書政策課 藤田課長

実は考えています。考えていますけれども「やります」というと何億円になってしまうんですよ。皆さんからお預かりした税金をどう使ったら良いかということを考えていかなければならないということになりますので。今、そういった出産支援金を出しているところがありました、それはこの際、出しているというところでは無いんですね。前から出しているところもありまして、うちの担当たちは、インターネットですとか、テレビ、色んな情報からそういう例は全て調査してストックしてありまして、おっしゃったようにやりたい、となったらすぐ出せるくらいの情報ストックはあるんですけども、それを花巻市が27年からやります、ということは申し上げられませんが。人口が少ない自治体は、そういうことに傾注、ほかはやめてもそういうところに傾注しているところもあるんですが、10万人の中で、どれを選択して、それにということを考えていかなければ無いと思っています。決して難しいって言うつもりはありませんし、色んなもので、花巻市としていくらかけたら良いなというところは、これからも相談させて下さい。

●柳谷励子委員

20年前、就農したくて、東和に来て。その時に非常に町が気持ちよく受け入れて下さったというのが、東和に決めたきっかけなんですけども、そういう窓口がちゃんとあるということはすごくありがたかったと思います。今こうして見た時に、支援とかそういうことで、それを全部やろうと思うと、お金がどのくらいあったら足りるのだろうか、と思いながら見てたんですけども、スローライフ目指して来る時に、収入がそんなに無くても何とかやっついこうという気持ちでは来ると思うんですよ。都会で暮らすよりも絶対、田舎で暮らした方が支出は少ないですね。私の思いでは、都会行くとちょっと外に出るだけで、交通費でもなんでもかかってくるんだけど。遊びの仕方もお金のかかる遊びじゃ無い楽しい遊びが田舎には沢山あると思うので、そういうことを、さっき子どもたちに啓蒙して

いきたいということがあったんですが、市全体で大人から子どもまで花巻で楽しんで、お金をかけずに生きていく、そういうのを考えていたり、宝物を探していくような、そういうことが少しずつできたら、良いのかなと思いながら聞いていました。

●渡部久美子委員

私自身も17年くらいこちらに結婚を機に住んでずっといたんですが、情報の発信の仕方が見えな、というか。子どもが生まれた時にどこで遊ばせたら良いんだろう、どこで何をさせたら良いんだろうと思った時に、その時は情報も何も無く、知り合いも無く、相談する相手も無く、どうしたら良いんだろうというのが正直なところだったんですね。なので、情報の発信の仕方をきちんとした、紙ベースであっても、地域にのぼり旗を立てるといような誰にでも目につくような、仕方をさせていただきたいな、というのと。私も岩手出身で岩手のことしか知らないの、人口減少とか出産とか、今現在では無く、小学生とか小さい子たちが岩手に残ってくれる、ほかから岩手に移住してくれるっていうのを得るためには、都会の方から岩手の楽しさを知っている、里山留学のような。外国の方では無く、都会の方たちとの交流とか、小学生とかを呼んで、雪で遊ぶ楽しさとか、ちっちゃいうちからやっていた方が良いのかなと、正直思います。何ヶ年計画ってすぐすぐには無いかもしれませんが、岩手の子に岩手の良さを再確認させるのって正直難しいような、ここしか知らないの。田舎はいやだと思って出ていくような気がするの、実際、自分の娘も高校卒業したら出るよって言われているの。私たちもこれが普通なので。もうちょっと外部から呼ぶことも力入れた方が良いのかなって、思いました。

●大久保浩二委員

今回は、商工会の青年部ということで、その中から言わせていただくと、商工会青年部では、プレミアムパーティという婚活のパーティを年に数回、市内で開催させていただいてまして、行政側だけをお願いするのでは無く、地域の団体として、東和でやっているわけでは無いんですけど花巻市全体でやっていることなんですけど、1団体としてもやれることはやっていかなきゃならないなというのは思いました。

●小原順委員

私は、さっき例にも挙げられました(NPO)おせっかい、婚活の団体があるわけですけども、その役員というか係やっているんですけども、非営利団体と言いながらも収益事業をやっているわけですが、成果が上がっているよ、ということは聞いております。成功報酬というようなこともあります。今までそういうのは無かったわけですけども、働いている人たちにはやっぱり励みになって、一生懸命、前に前にやっていくために、やっぱり団体をもう少しバックアップするとか、支援するとか、やってくれば良いななんて、つぶやきも聞こえましたので、どうなのかなと。という

ようなことを思っていました。良さそうな事業はあるんですか。

●秘書政策課 吉田主任

ワーキンググループの中でも、議論を重ねて検討させていただいた中で、今、2つのスタイルがあって、1つはおせっかいさんみたいな民間団体さんががんばってもらって、商工会議所青年部さんのプレミアムパーティのような形でやってもらったり、民間にがんばってもらって行政がそれに支援、というパターンと、行政が自分で乗り出しちゃうというパターンありますよね。市がやるという。ワーキンググループの中では、おせっかいさん、とか、商工会議所さんとか、民間でやってもらっている、ノウハウを持っている皆さんがいるのだから、私たちはあくまで支援なんだと、というようなことで、金目の話になるんですが、そういう活動をしている団体さんに対する補助金を出しましょうと、いうことで。

●秘書政策課 藤田課長

具体的にどうしていったら良いかというのは、またご意見を伺いながら進めると思います。ただ、今言ったような、おせっかいさんなどとそういうところと一緒にできることを、進める先にあるのは小原さんのおっしゃったように、市内で嫁さん、旦那さん早く見つかる、そういう思いがありますから、そういうところは考えていきたいと思っておりました。

●熊谷恵委員

街コン言われているものですね。出会いの場を提供するというのが、本当に今、若い人たちは自分たちで出会いの場を作るのが下手くそというか作りにくいというか、とても良いことだと思うんですけど。事例なんですけど、実は街コンでとても良い方と知り合ったら、この人と結婚したいなと思ったら、ある日突然、メールをしても返事が来ない、電話をかけても出ない、どこに行ったかわからない、というようなことがあって、1年ぐらいおつきあいしていたのかな。アパートの鍵は渡してるし、どうしようっていうようなそういう事例もありますので、私は、じゃあその方のご実家は知ってるの、って聞いたら、知らない。やはりそういうような出会いの時にはきちんとして、出会いの場を設けるというようなことにしないと、ちょっとえらいことになるのかなと。そういう事例があったので、危険だな、遊び半分でそういうとこに顔を出されて、ぱーっとどっか行っちゃったなんてね。もうこの辺にはいないんですよその人は。そういうようなことになったら大変だなんていう思いはありました。

●吉田英雄委員

これ、っていう手は無いと思うんですけど、やっぱり地道にやるしか無い。不妊治療の問題。これはすごくそれで悩んでいる方いっぱいいますので、ぜひ何か支援を具体的に。色々個人差はあるんで

しょうけど、何か支援する方法があれば、ぜひPRかなんかしてもらって、やって欲しいというふうに思います。それと子育て支援、保育園の場合にルールがあって、入れる入れないの。私からすると、規制みたいなのがあって、対象にならない、なるとかの、ありますよね、今でも。それはね、あるんだろうけども、行政の面から見れば、違法にならないのはね、良いと思うんですよね、入れても。それで入れないっていう子もありますので、まずその枠をね、やや緩くしてもらって、もう少し検討してもらって、入れるようにして欲しいなど。市町村によってばらつきあるようですので、例えば遠野で良くてもこっちでだめとかね、色々比較しているお母さん方もいますので、やりやすいような方法をして欲しいなと思います。まあ時代変わっていますからね。あと若い人の住宅の方。これも家賃、入れるところもあるし、入れないところもあるし、その辺も旦那さんの経済力、奥さんの経済力、いくら以上であれば入れる、入れない、その辺、あるいは実家の方まで調べられて、その辺もね規制を緩くしてもらって、入る機会を提示してもらって、若い人でも入れる方法も見い出して欲しいなと思います。

●伊藤功委員

私、田瀬なんですけども、人口減少、高齢化率、これを見ますと、私ども20年から25年ほど先行しているんですよね。田瀬地域の人口というのは、ダムが出来た10年後、昭和39年なんですけども、その時1,200人いたんですね。それが550、560人。半分切っています。高齢化率は43.6%。その次のところとも3%から4%くらい違っているんですね。だからこの、高齢化率は27コミュニティ会議でワーストワンなんですけども、下位のところも追い越すのはまず至難の業だなと。それほど厳しい状況だということは感じました。解決について、我々地域視点で地域がということも、もちろんやれることはあるんでしょうけれども、なかなか至難の業だなと、ということも感じましたし。実は、田瀬地域には1年おきになりますけども、川崎市の子どもたちも来て、ホームステイやってるんです。やってきた日は非常に喜んで、景観も、喜んでくれますけどもね、なかなかその次に結びつくまでは。そういうことを考えますと、田瀬だけじゃ無く全体に高齢化率は進んでいますから、養護施設を支援する、地域に造っていただいて、そうすればあるいは若干のね、雇用の関係で人口が増えていくのかな。なかなか、困ったなと言いますか。地域独自では課題をいくらかでも何か出来ないかと思っていますけども。

●鎌田榮一委員

前、私の若い頃であれば、仲人さんという世話する人がいたんですが、東和町時代は仲人料だか、斡旋して仲人さんやっておったはずですが、市になったら仲人さんも何も無くて。現状、仲人さんは全然いない、東和町時代はあったんですよね。

●東和総合支所 佐々木支所長

ありましたね。成功報酬で1件30万。実績もありました。

●鎌田榮一委員

今はその人たちも年取って無くなった方もありますが、まだ生きている方もいると思うんだけど、若い人たちに教えてもらえば、なんとか独身でいないような格好がとってもらえるんじゃないかなと思うんだけど。自分の家にも息子がいますが、まだ独身ですから、職場が男ばかりいっぱい職場だと、女性と逢わせる交流が何も無いんだと。そういう観点から、昔ながらの斡旋してもらえれば、なんとかかんとか結び逢えるのでは無いかなどという意図もあるんだけど。そういうふうなことも無いものだから、職場へ行けば男ばかりで、さっぱり女の景色は見えないと。で夜帰ってくれば、家と会社で行ったり来たりしている格好。それらを何か斡旋事業してもらえればなど。

それともう1つ、企業誘致の関係なんだけど、北上の人口がまだ下がらないという。やっぱり企業誘致が多いからだと思うんだけど、花巻はこれ以降、どのように考えていくか。

●秘書政策課 藤田課長

確かに、花巻だってやっていなかったわけでは無かったですけども、県の決めで金ケ崎に自動車産業、北上は既存の企業誘致もあったけどもITとかそういうのを入れて来たんですけども、花巻だって無いわけではなく、高速道路の方には結構集中したし、花巻空港のそばにもそろそろ満杯になっていました。時間は3年ないし4年かかるんですけども、新しい工業団地を造成しますから、そこにまた企業の誘致を進めていきますし、もう1つのことは、なかなか中国に行ったり、恒常的に活発な業種と、活発で無い業種とありますから、その見極めをしながら、ということになるんだと思います。ただ、私たちの中でも企業誘致を続けていかなければならないというのが目標ですので、進めていきますから。その中で、若い人がそこで暮らしていければ良いなと思っています。

●東和総合支所 佐々木支所長

北上はですね、企業誘致を主体にして50年も歴史があるんです。花巻がそうかというところじゃないんですよ。観光を主体にして来たという経緯があります。工業生産額を見ても全然花巻と北上は額が違います。何倍か違います。というのが実態。工業団地、流通関係の誘致は花巻受け皿がいっぱいあって、ほとんど満杯状態。今はそういうふうな流通関係が主体。だけど、工業団地が無いということで商品が無いという状況。だからまず商品をまず作りましょうということで、進めていく、という方向です。北上はかなり前から先手打って次々作ってきたという経緯があるので、差はそこに出ているということにあります。

●秘書政策課 藤田課長

情報が発信されてこなかったということ、それから市全体で何かお金をかけないでもやれることが

無いかということはどうですか、広報誌に上げたって見ないと見方もわからないしということもあったり、それは子育ての情報だけでは無いんですけどね。色んなことについて、花巻市の方がどうやってそれを知っていくかという、特にもほかから越して来た人とか、お嫁さんで来た人にはわからないもんですから、子育てした、する人たちにとっての情報は、こういうところに行ったらとれるよというようなことも、今までの反省も含めて、これからやっていくところでありますし、例えば、子どもさんでも、何のお困りか、遊び場が無いのだから、施設が足りないのだから、相談をするのはこういうメニューがありますというのは、常に身近に出れるようにしたらいいなということを考えておりました。

1番大事だと思っておりますのは、子育てを通じて、人口減少を通じなくても、地域の企画政策をやっていく立場としては、情報は発信し続けていくことが大事だなというように思います。せっかくある観光の情報、地域の情報、歴史の情報、どんどんどんどん発信していくと、地元の人もちよっと誇りを感じて来るかなと思いますので、そういうところが今まで足りなかったんだなと思って、ちょっとがんばっていきますから。

●（議長）小原宏会長

それでは、時間でございますので、今日の会議はこれで閉じさせていただきたいと思いますが、次回の会議につきましては、内容は人口減少に関する中間報告に対する皆さんの意見を聞く、ということで、来月、開催したいな、というふうに思いますが、具体的には事務局さんをご相談いたしますので、会長にお任せさせていただきたいと思いますので、みなさんよろしくお願ひします。

今日につきましては、以上で終わります。

4 その他

無し

5 閉会